

万博公園探鳥会 05年度の記録

05年4月～06年3月)
2006年3月31日

- ①万博探鳥会05年度実績
- ②05年度探鳥会全データ
- ③05年度観察回数
- ④05年度探鳥会コメント
- ⑤05年度月別観察種数
・参加者数
- ⑥01年～05年の推移



ツグミ

(今年は数が少なく、珍鳥となっている冬鳥)

集約 吹田野鳥の会／日本野鳥の会大阪支部
協力 (独)日本万国博覧会記念機構

①万博探鳥会 05 年度実績

主催 (財)日本野鳥の会大阪支部

定例開催日 毎月第2土曜日

9:30 自然文化園中央口集合

15:00 頃日本庭園東側で終了解散

探鳥会回数 13回(04年は雨中止1回あり12回)

基本的には月1回。

11月のみバードウォッチング・ウィーク探鳥会
(11/3)実施のため月2回開催。

探鳥会で観察した鳥 57種(04年59種)※

毎回の観察種 21~35種

年平均 29種/回(04年31種)※

探鳥会参加者数 856人(04年1037人)※

毎回の参加者 14人~135人

年平均 66人/回(04年86人)※

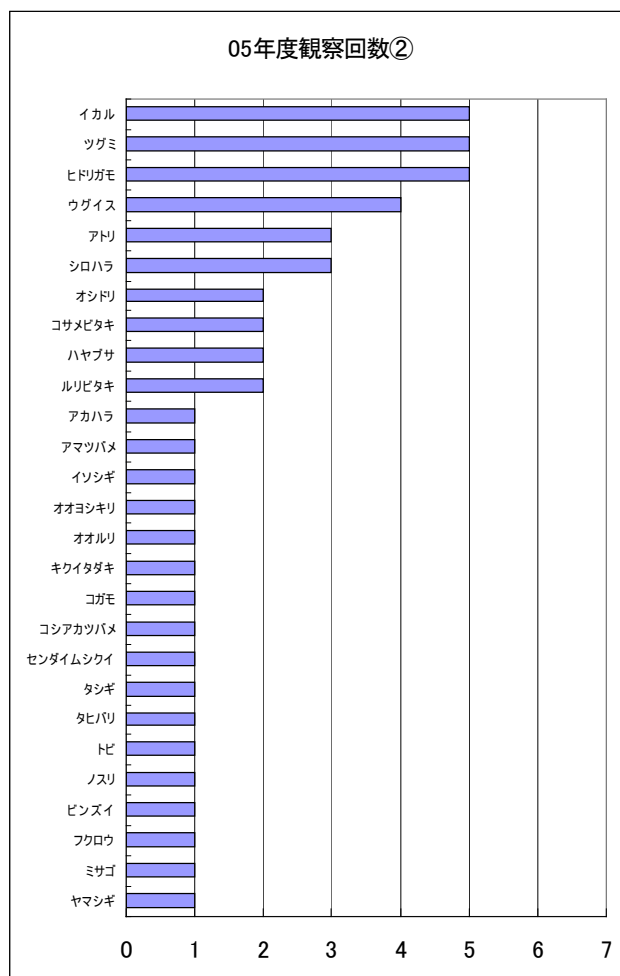
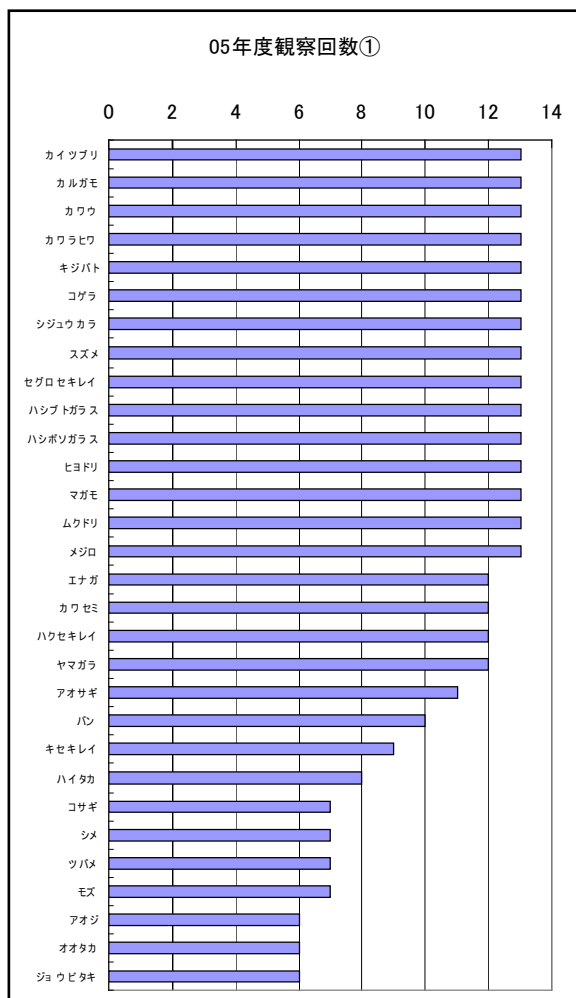
※前04年報告は04年1~12月で集約していたが、本05年報告は05年4月~06年3月で集約した。このため、比較で一たの04年までの記録も、各年4月~翌年3月に修正済み。

205年度探鳥会全データ

	科名	種名	05年													
			4	5	6	7	8	9	10	11	11	12	12	1	2	3
1	カイツブリ	カイツブリ	4	2	○	5	3	4	1	○	10	10	14	11	11	13
2	ウ	カウウ	5	3	○	4	2	5	1	○	2	1	○	5	7	13
3	サギ	コサギ			○			1	1	○	1			1	1	7
4	サギ	アオサギ	1	1	○	1	4	3	2			1	○	1	2	11
5	カモ	オシドリ												2	10	2
6	カモ	マガモ	2	1	○	3	3	3	6	○	13	4	○	8	5	13
7	カモ	カルガモ	8	8	○	15	17	12	12	○	17	16	○	20	15	13
8	カモ	コガモ								○						1
9	カモ	ヒドリガモ	7									7	○	38	8	5
10	タカ	ミサゴ										1				1
11	タカ	トビ													2	1
12	タカ	オオタカ		1			1		1	○		1		1		6
13	タカ	ハイタカ	1						1	○	1	1	○	1	2	8
14	タカ	ノスリ										2				1
15	ハヤブサ	ハヤブサ							1			1				2
16	ウイナ	バン	1	1			2	1	1	○	1	1		1	2	10
17	シギ	イソシギ						1								1
18	シギ	ヤマシギ								○						1
19	シギ	タシギ											○			1
20	ハト	キジバト	4	2	○	3	3	6	1	○	6	2	○	4	7	13
21	フクロウ	フクロウ											○			1
22	アマツバメ	アマツバメ							1							1
23	カワセミ	カワセミ	1	3	○	2	2	3	3	○	5	2		3	2	12
24	キツツキ	コゲラ	5	4	○	4	1	7	5	○	4	2	○	5	4	13
25	ツバメ	ツバメ	5	5	○	10	3	2	3							7
26	ツバメ	コシアカツバメ							6							1
27	セキレイ	キセキレイ				1		1	1	○	1	2	○	1	1	9
28	セキレイ	ハクセキレイ	2	1		3	1	12	18	○	36	16	○	5	9	12
29	セキレイ	セグロセキレイ	1	2	○	7	4	5	7	○	8	3	○	3	2	13
30	セキレイ	ピンズイ												2		1
31	セキレイ	タヒバリ								○						1
32	ヒヨドリ	ヒヨドリ	23	14	○	9	3	5	7	○	29	33	○	37	17	13
33	モズ	モズ						1	3	○	1	3	○	1		7
34	ツグミ	ルリビタキ	1												1	2
35	ツグミ	ジョウビタキ	1							○	2	2		3	1	6
36	ツグミ	アカハラ	1													1
37	ツグミ	シロハラ	3											2	1	3
38	ツグミ	ツグミ	8									7	○	18	25	5
39	ウグイス	ウグイス	2								2	1			2	4
40	ウグイス	オオヨシキリ			○											1
41	ウグイス	センダイムシクイ							1							1
42	ウグイス	クイタダキ								○						1
43	ヒタキ	オオルリ	1													1
44	ヒタキ	コサメビタキ		1							2					2
45	エナガ	エナガ	5	10	○		2	34	12	○	10	8	○	8	2	12
46	シジュウカラ	ヤマガラ	7	5		2	2	4	2	○	2	2	○	2	2	12
47	シジュウカラ	シジュウカラ	14	11	○	11	4	17	14	○	18	5	○	13	9	13
48	メジロ	メジロ	12	6	○	2	9	12	14	○	17	7	○	6	10	13
49	ホオジロ	アオジ	4								1	3	○	4	2	6
50	アトリ	アトリ	7									1		12		3
51	アトリ	カウラヒク	12	7	○	5	13	47	28	○	23	35	○	33	43	13
52	アトリ	イカル	2	1		1		4							2	5
53	アトリ	シメ	1							○	1	2	○	6	8	7
54	ハタオリドリ	スズメ	34	37	○	43	12	63	20	○	50	5	○	3	40	13
55	ムクドリ	ムクドリ	19	31	○	11	7	91	23	○	13	4	○	15	4	13
56	カラス	ハシボソガラス	11	19	○	6	9	15	14	○	17	10	○	12	11	13
57	カラス	ハシブトガラス	33	14	○	3	2	9	2	○	6	12	○	7	6	13
																377
年間観 察種数			35	25	21	22	23	27	32	31	28	35	28	35	35	29
個体数			248	190		151	109	368	214		297	205		284	267	(2,333)
参加者数			125	93	13	37	33	64	31	73	86	88	15	98	100	856
天候			快晴	快晴	雨	曇後雨	曇後雨	晴後曇	小雨	曇	曇後晴	晴	雨	晴	曇後晴	

○印月はカウントせず、確認のみ

③05年探鳥会での観察回数

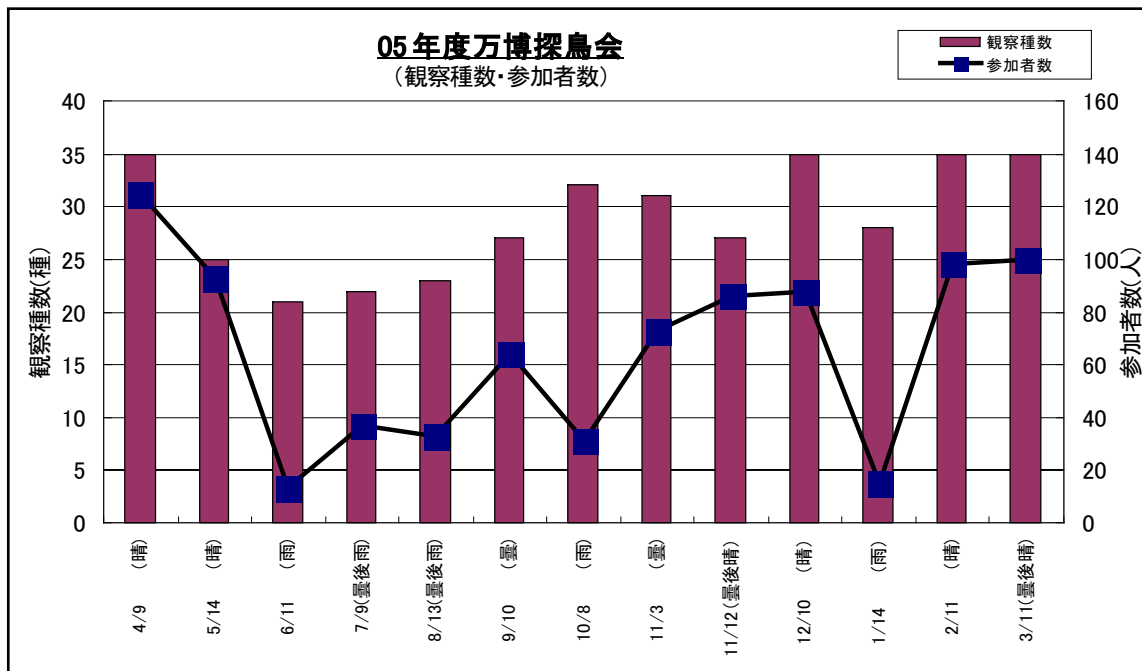


探鳥会で観察した全57種の観察回数は上表の通りである。先に万博公園探鳥会20周年記念誌として04年12月までの20年に観察した116種についてのデータをまとめたが、その後新しく追加された種は04年度(05/2)クロジ、05年度(06/1)タシギの2種で、21年間の探鳥会での観察種は118種となった。

④05 年度探鳥会コメント

月/日	天候	観察 種数	参加 者数	コメント
4/9 5/14	35 25	125 93	快晴 快晴	<p>(4月) 快晴の花見日和で園内は人人人の波。冬鳥のツグミ・アトリは人気のない所を見つけて餌探し、留鳥のエナガ・コゲラは巣作り中で、オオルリ・アカハラを見た人がいました。 (5月) 新緑が輝く木々の梢からシジュウカラのさえずりがひっきりなし、カワラヒワ・メジロも負けじと歌い、エナガの若鳥が飛び回るなど、園内の留鳥たちは子育てで大忙し、春の渡り鳥のコサメビタキを見ることができました。 (6月) 梅雨入り宣言の当日、雨予報80%で参加して頂いた熱心な方への鳥からのプレゼントは、カワセミの若2羽、大声でさえずるオオヨシキリでした。</p>
6/11	21	13	雨	
7/9	22	37	曇後雨	
8/13 9/10	23 27	33 64	曇後雨 晴後曇	<p>(7月) 毎年7月は定例探鳥地のゴミ拾い月間、万博公園は掃除をする人がいるのでそれほど多くないものの、ゴミを拾いながら今年生まれの幼鳥を観察した。数年ぶりのカルガモ、カワセミ、そしてカイツブリ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、シジュウカラ、コゲラ、スズメ、ムクドリなど、10種を越えた。 (8月) 山野の鳥は声がしても林から姿を見せる鳥は少ないが、水辺の鳥はカルガモ・マガモ・カイツブリ・アオサギ・カワウ・セグロセキレイなどをじっくり観察できた。雨のため先月に続いてお昼で終了とした。 (9月) 豊中の最高気温32℃と残暑厳しい中、秋の渡り鳥を期待したが、ムシクイSPと探鳥会終了後すぐに見たイソシギ(記録に入れた)のみでした。シジュウカラ・エナガ・ヤマガラなどの数が多く、カワセミも良く出た。</p>
10/8 11/3	32 31	31 73	小雨 曇	
11/12 12/10	28 35	86 88	曇後晴 晴	<p>(10月) 雨の中、渡りの小鳥はコサメビタキ、センダイムシクイと少なかったが、ヤマガラがエゴノキの実、メジロがキンモクセイの花に集まる所や、いろんなタイプのハクセキレイ、そしてカワセミを良く見ることができた。 (11月BWV) 「森の音楽フェスティバル」があり、あちこちから鼓笛隊などの音が鳴り響く中、人の少ない芝生広場を選んで30羽ほどのハクセキレイが飛び交い、そこに万博探鳥会としては98年3月以来で3回目のタヒバリがいた。冬鳥のジョウビタキ、そしてシメの群など園内の人出に負けず鳥も出てくれた。 (11月定例) 11/3BWVに続く2週連続探鳥会、期待したツグミ・アトリの姿はなく、先週見たコガモ・ビンズイも姿を見せないなど、冬鳥は増えていなかった。その代役はカワセミ、園内のあちこちで何回も姿を見せ参加者の歓声を浴びた。 (12月) 到来が遅れている冬の小鳥はようやくツグミが到着、アトリも1羽ではあるが観察できた。タカの仲間は常連のオオタカ・ハイタカに加え、ミサゴ・ノスリ・ハヤブサの5種となり、万博探鳥会の新記録を作った。</p>
1/14	28	15	雨	
2/11 3/11	35 35	98 100	晴 曇後晴	<p>(1月) 天気予報の雨確率は80%と高く中止を予定していたが、15人の参加があったこと、園内にフクロウがいるとの情報から実施した。お目当てのフクロウは数人しか見られなかったが、200羽ほどのカワラヒワの群、万博初認タシギの飛翔など、思いの外多くの鳥が出てくれた。今シーズン数が少ないツグミも、探鳥会終了後であるが探鳥会で回らなかった東の広場で63羽も見つかった。 (2月) 1985年2月にスタートした万博探鳥会は満21年記念日、冬鳥は多くなかったもののツグミ・ジョウビタキを全員で見ることができ、アトリ・シロハラ・ビンズイ・オシドリ、そしてカワセミ♂♀あわせて3回も出てくれた。 (3月) 例年より一月遅れで梅が満開、鳥は、ウグイス・シジュウカラ、カワラヒワのさえずりが始まっていたが、ルリビタキ・ジョウビタキ・シロハラが各1羽ずつ、アトリが出ないなど今シーズンの冬鳥の少なさを象徴したような一日だった。</p>

⑤05年度月別観察種数・参加者数



(観察集数) 冬35種観察できるのに対し、夏は雨の影響もあり6月は21種に止まった。毎月観察した種が15種あるので、常連以外の鳥が6種～20種と季節によって大きく変動している。

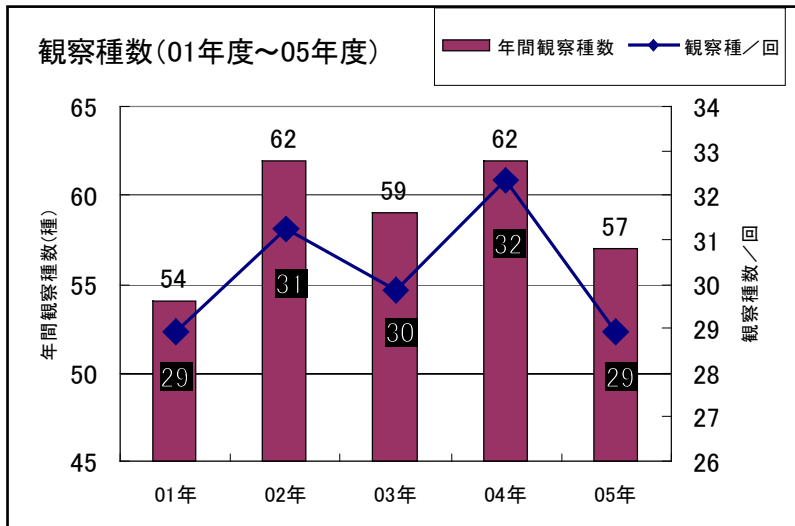
これはツバメなど夏に繁殖にするため南から来る鳥よりも、カモの仲間など冬に越冬するため北から来ている鳥が多いことによる。

尚、04年度は44種(05/2)観察した月もあったのに比し、35種と少ないのは、今シーズンの冬鳥が少ないことを示している。

(参加者数) 05年度参加者は前年比83%の856人、探鳥会1回あたりでは86人→66人と大幅ダウンした。開催日に雨が多かったことなどによる。

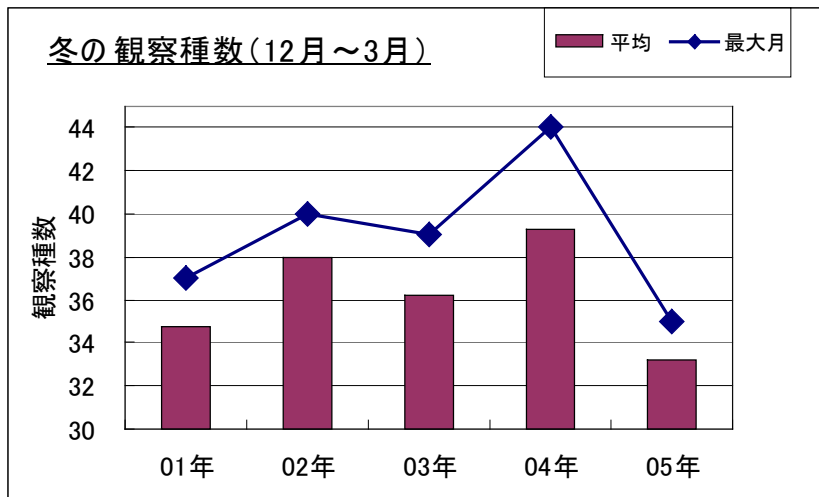
⑥01～05 年度観察実績推移

・観察種数



05年度はトータル種数・探鳥会1回当たりの種数とも、01年と並ぶ低レベルであった。

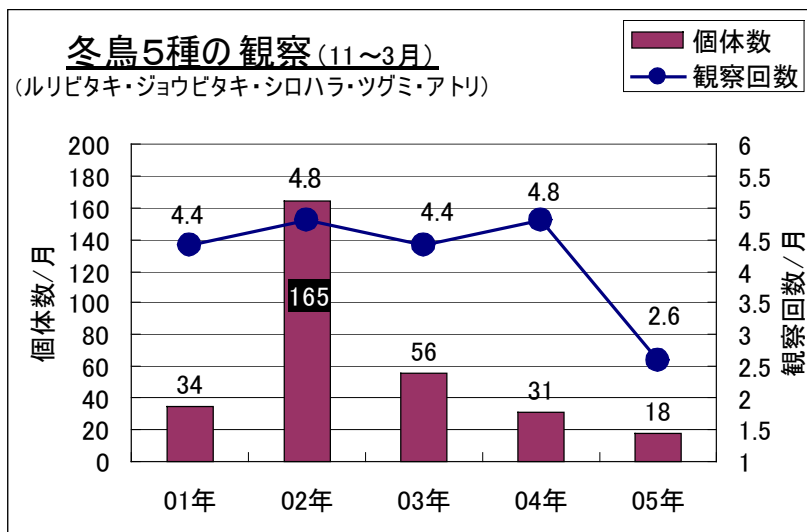
・冬の観察種数



今冬は冬鳥が少なく、トータル観察種数にも影響していると推定されたので、冬の4ヶ月(12月～3月)種数の推移をみた。昨04年冬が最も多かったのに対し、今05年は平均、最大月ともこの5年間で最低レベルであったことがわかる。

今冬は冬鳥が少なく、トータル観察種数にも影響していると推定されたので、冬の4ヶ月(12月～3月)種数の推移をみた。昨04年冬が最も多かったのに対し、今05年は平均、最大月ともこの5年間で最低レベルであったことがわかる。

・冬鳥5種の個体数・観察回数

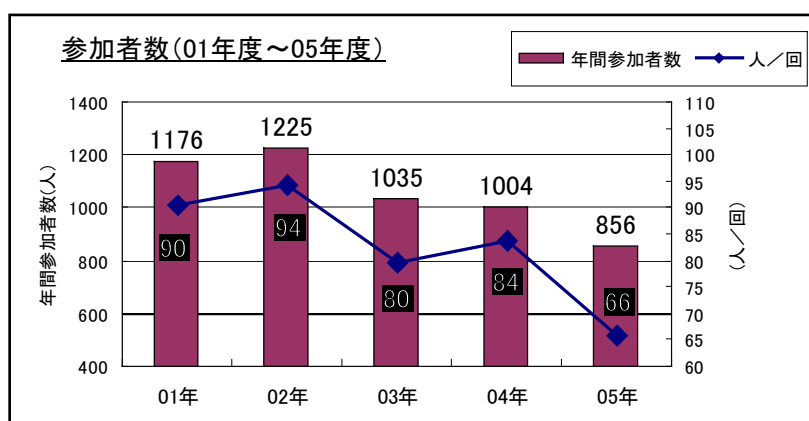


更に詳しく冬鳥の状況を見るため、11月頃大阪近郊に渡ってきて、4~5月に繁殖地へ戻る冬鳥5種(ルリビタキ・ジ

ョウビタキ・シロハラ・ツグミ・アトリ)の、個体数・観察回数についてまとめた。例年何処にでもいるツグミ・シロハラが、本05年はあまり見かけないなど、バードウォッチャーの実感が数値に出てきている。

尚、02年の個体数が、165羽/月となったのはアトリ190羽、ツグミ60羽ほど観察できたことによる。

・参加者数



年間参加者数及び探鳥会1回当りの参加者数が、この5年間で最低レベルとなった。上述の通り雨の日が多かったことも影響しているが、千里ニュータウンのオ

ールドタウン化による減少に歯止めがかかっていないことも影響している。